

総合問題 1

I () の同じ記号のところには共通する漢字が入ります。解答欄に漢字と____の部分の読み方を書きなさい。

(例) 日本の夏の花^a(①)は有名だ。

近所^bで(①)(②)があって、私の家も焼けるところだった。

仕^c(②)は大変ですが、面白いです。

① 火	② 事	a はなび	b かじ	c しごと
-----	-----	-------	------	-------

(1) 私にも分かるように易しく^a(①)明してください。

難しい本だが、^b(②)(①)を読めば分かる。

この問題についてのあなたの^c(③)(②)を聞かせてください。

^d(④)験をしている時、偶然新しい物質を^e発(③)した。

私の夢^fがやっと(④)現する。

①	②	③	④		
a	b	c	d	e	f

(2) ^a(①)別や国籍にかかわらず、だれでもこの職に就ける。

この車は消費者の声を^b(②)映して、^c(①)能がよくなっている。

交通^d違(②)で捕まって、親に^e(③)配をかけた。

私はその問題にあまり^f関(③)がない。

ずいぶん^g熱(③)に^h(④)論していますね。

その話はあまりにもⁱ不ⁱ思(④)で、信じられなかった。

①	②	③	④	
a	b	c	d	e
f	g	h	i	

II 次の二つの文の____に、同じ漢字を入れ、()に読み方も書きなさい。

(例) 完成までに一月かかります。/ 来年の一月に国へ帰る。
(ひとつき) (いちがつ)

① 一月____のことを、元日という。/ 今年忙しくて____も仕事を休んでいない。
() ()

② あなたの生年____はいつですか。/ ____のたつのは速いものだ。
() ()

③ 彼はいつも5時____前になると帰る支度を始めて、5時になったとたん会社に
()

飛び出す。/ 結論は急がずに、____考えてから出さない。
()

④ ____は午後から雨が降るそうなので、傘を持っていったほうがいいですよ。/ 過去
()

から____に至るまでの宇宙開発の歴史の講義を受けた。
()

III □々と同じ漢字を繰り返す言葉です。□の中から漢字を選んで入れ読み方も書きなさい。

別 広 続 点 着 様 少 若 次

(例) □々お待ちください。

① 新しい空港の工事が□々と進んでいる。

② 燃えるごみと燃えないごみを□々に分けて出す。

③ 地震で被害を受けた地域に□々と救援の物資が届けられた。

④ おいしい料理が□々に運ばれてきた。

⑤ 子供は外の□々とした所で思い切り遊ばせたい。

⑥ 4月、大学のキャンパスには、□々な夢と希望を持った
新入生が入学してくる。

⑦ 雪の上に小さな動物の足跡が□々と続いていた。

(例) 少	しょうしょう
①	
②	に
③	
④	に
⑤	
⑥	な
⑦	

IV 部分の漢字は読み仮名を、平仮名は漢字を（送り仮名も）書きなさい。

①火とどうぐを用いることによって、じんるいは多くののうりよくを手にいれた。それから長い年月を経て、じんるいの歴史を大きく変えたのはまず蒸気機関のはつめいであった。そして、20世紀になって石油が登場し、さんぎょうの姿は大きく変わって重化学こうぎょうが中心となった。更にげんだいはといえば、じょうほうがしゅようなさんぎょうとなったのである。

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j

②久しぶりに先生のお宅をたずねた。今は仕事をやめられて、のんびり暮らしていらっしゃる先生は、「雨の日は家で本を読み、天気の良い日はのや山を歩いているんだよ。楽しみは昼食の後の昼寝かな。」と笑われた。なるほど山に生えているくさや花のたねを取ってきては植えられているのだろう、にわのあちこちに珍しい花が咲いている。いけのあたりでは虫がないて、秋の気配が感じられる。「一緒に飯でも食ってけよ。」と言ってくださったので、にわからの涼しい風に吹かれながら夕食をごちそうになった。お元気そうで何よりだった。

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j って

③医学がはったつしていなかった昔は、赤ん坊が生きる上で多くの危険があった。そのため子供のせいちょうをねがういろいろな行事があった。日本の「七五三」というのは、七つと五つと三つになった子供のせいちょうを祝う行事である。3歳まで育てばまず安心、7歳になれば一応大丈夫ということであろう。「こどもの日」としてこくみんの祝日になっている五月五日もやはり昔は男の子のお祝いの日であった。更に、一月の「せいじんの日」は無事に二十になったことを祝う日であった。

a	b	c	d	e つ
f	つ g	h	i	j

④昨日中国の友達から、来週日本へ来るという速達が届いた。彼は昔同じ大学でけいえいがくを学んだ友達だ。私が宿題で困っていた時、助けてくれたことがきっかけで、親しくなった。彼は度々私のげしゆくを訪ねてきては、いろいろな話をした。専門の分野の話から始まり、命の大切さ、せいふに対する不満まで、夜が明けるまで話し込んだ。大きな声なので大家さんによくちゅういされたことや、彼の笑顔と低くて太い声が思い出される。10年ぶりに会えるその日を今から楽しみにしている。

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j い